

# けい ちつ 啓 蟄！ —考古遺物コレクション—

大阪市立美術館コレクション展 出品リスト

2019. 2/16-3/24

南館2階 第15室

No. 指定	名称	出土地・備考	時代	所蔵
1 ○	金銅 独鈷杵	鳥取・倉吉市(旧杜村)出土	平安時代後期・11世紀	本館蔵(田万コレクション)
2 ○	白銅 五鈷鈴	奈良・金峯山出土	鎌倉時代・13世紀	本館蔵(田万コレクション)
3	石器類	一括 福島・桑折町(旧半田村)出土	縄文時代後期～晩期・ 紀元前12～10世紀頃	本館蔵(穂積武氏寄贈)
4	縄文土器 深鉢	出土地不詳 大洞B-C式	縄文時代晩期・ 紀元前11～10世紀頃	本館蔵(佐々木治郎氏寄贈)
5	青銅 広形矛	(伝)福岡・豊前市(旧河原田村)出土	弥生時代後期・2～3世紀	本館蔵(亀岡清太郎氏寄贈)
6 □	青銅 流水文鐸	豊中市・桜塚出土	弥生時代中期・ 紀元前2～後1世紀	大阪・原田神社
7 □	青銅 流水文鐸	(伝)堺市・陶器山出土	弥生時代中期・ 紀元前2～後1世紀	本館蔵(平泉為造氏寄贈)
8	弥生土器 簾縄文水差	旧河内国出土 畿内第Ⅲ様式	弥生時代中期・ 紀元前2～後1世紀	個人蔵
9	須恵器 脚付長頸壺	堺市・陶器千塚出土	古墳時代中期・5世紀	本館蔵(児山定固氏寄贈)
10	須恵器 横瓶	堺市・陶器古窯址群出土	古墳時代後期・6世紀	個人蔵
11	須恵器 鳥形瓶	岡山市・宮浦出土	古墳時代後期・7世紀	本館蔵
12	須恵器 革袋形瓶	出土地不詳	古墳時代後期・6～7世紀	個人蔵
13	埴輪 盾破片	奈良・室宮山古墳出土	古墳時代中期・5世紀	本館蔵(森浩一氏旧蔵)
14	塔塚古墳出土品 一括のうち	堺市・塔塚古墳出土	古墳時代中期・5世紀	個人蔵(森浩一氏旧蔵)
	-1 青銅 位至三公鏡			
	-2 青銅 方格規矩鏡			
	-3 勾玉			
	-4 棗玉			
	-5 ガラス丸玉			
	-6 ガラス小玉			
15 ○	青銅 三角縁神獸鏡	鳥取・倉吉市(旧杜村)古墳出土	(中国)三国時代・3世紀	本館蔵(田万コレクション)
16 ○	青銅 捩文鏡 高橋健自箱書/重要美術品認定書	奈良市都祁白石町古墳出土	古墳時代中期・5世紀	本館蔵(田万コレクション)
17	蓮華文軒丸瓦	羽曳野市・善正寺跡出土	白鳳時代・7世紀	個人蔵
18	唐草文軒平瓦	2片 羽曳野市・善正寺跡出土	白鳳時代・7世紀	個人蔵
19	須恵器 有蓋短頸壺	堺市・陶器窯	奈良時代・8世紀	個人蔵
20	須恵器 短頸壺	出土地不詳	奈良時代・8世紀	本館蔵(田万コレクション)
21	灰釉 短頸壺	(伝)京都市上醍醐出土 愛知・猿投窯	平安時代初期・9世紀	個人蔵
22	須恵器 有蓋短頸壺	出土地不詳	平安時代末期・12世紀	大阪・高倉寺宝積院
23	陶質土器 縄蓆文壺	出土地不詳 新羅系	原三国時代・4世紀	本館蔵(瀬良陽介氏寄贈)
24	陶質土器 波状文丸底壺	出土地不詳 新羅系	三国時代(新羅)・5世紀	大阪・久修園院
25	陶質土器 坏付瓶	出土地不詳 百濟/伽耶系	三国時代・5-6世紀	本館蔵
26	陶質土器 鋸齒連珠文短頸壺	出土地不詳	統一新羅時代・8世紀	個人蔵
27	四神刻文組合石棺・墓誌	出土地不詳	高麗時代・大定29年(1189)	本館蔵(田中光顯氏寄贈)
28 ◎	紀吉継墓誌	大阪・南河内郡太子町出土	平安時代・延暦3年(784)	大阪・妙見寺

指定 ◎：重要文化財 ○：重要美術品 □：大阪府指定有形文化財

\* 作品リストの順序と展示順序とは必ずしも一致いたしません。

No. 指定	名称	出土地・備考	時代	所蔵
29	『集古図』	第9巻「鏡」 藤原貞幹撰	江戸時代・元治元年(1864)写 原本：寛政6年(1794)撰	本館蔵
30	前田青邨《若草山より見る古墳群》	双幅 『日本の古墳』見返し絵原画	昭和35年(1960)	個人蔵(末永雅雄氏旧蔵)
31	前田青邨《鬼瓦と消息》	一幅	昭和38年(1963)	個人蔵(末永雅雄氏旧蔵)
32	前田青邨《崇神陵》	双幅 『古墳の航空大観』見返し絵原画	昭和45年(1970)	個人蔵(末永雅雄氏旧蔵)
33	青銅透彫 龍文提梁香炉 濱田青陵箱書		三国時代(魏)・正始8年(247)銘	本館蔵
34	岩周巢『古墳スケッチ帖』	末永雅雄氏著書挿図原画	昭和15～30年(1940-55)頃	個人蔵(末永雅雄氏旧蔵)
	-1《茶臼山古墳》	大阪市天王寺区		
	-2《石宝殿》	寝屋川市		
	-3《石棺図》			
	-4《古市古墳群》	羽曳野市・藤井寺市		
	-5《河内古墳の形式》	(石室)		
	-6《河内古墳の形式》	(墳形)		
35	野村広太郎『明治・大正 なにわ百景』 《雪の帝塚山古墳借景》	大阪市住吉区	昭和55年(1980)頃	本館蔵(野村広太郎氏寄贈)
36	野村広太郎『明治・大正 大阪百景』 《茶臼山の古墳》	大阪市天王寺区	昭和53年(1978)頃	本館蔵(野村広太郎氏寄贈)
37	丸山石根『新大阪百景』		平成2年(1990)頃	本館蔵(ダイキン工業株式会社寄贈)
	-1《仏陀寺古墳の椿》	南河内郡太子町		
	-2《大塚山古墳》	羽曳野市・松原市		
	-3《狭山池》	大阪狭山市		
	-4《紫金山史跡公園》	吹田市		

\* 作品リストの順序と展示順序とは必ずしも一致いたしません。

## 啓 蟄！—考古遺物コレクション—：好古家/考古家列伝

**藤原貞幹**(1732-1797)：本名は藤貞幹。無仏齋、好古などと号す。江戸時代中期の京都を代表する好古家。国学・有職故実に通じ、文献史料だけでなく遺跡や遺物にも関心を示した点で本邦の考古学研究的端緒をひらいた人物と言える。筑前志賀島で「漢委奴国王」金印が発見された直後に印文の「委奴国」を「伊都国」と解釈した最初の人物。『衝口発』『好古日録』など著作多数。

**田中光顕**(1843-1939)：土佐高知藩士。武市瑞山に師事し土佐勤皇党に加わる。幕末の志士として活躍後、明治政府では元老院議官・警視総監・学習院長などの要職を歴任。明治31年以来11年の長きにわたって宮内大臣を務め、宮中に権勢をふるった。失脚すると、志士の遺品・遺墨の収集や日本漆工会会頭に就任するなど文化事業に力を入れた。

**高橋健自**(1871-1929)：日本の考古学黎明期に活躍した考古学者で、埴輪・銅鏡の研究に貢献した。邪馬台国大和説を主張したことで著名。東京帝室博物館歴史課長を務めるかたわら、日本考古学会を主宰し『考古学雑誌』を創刊するなど考古学研究的土台を築き上げた。遺物の研究を中心とした実証を重視した態度は「博物館学派」の名で呼ばれる。主著『鏡と剣と玉』など。

**濱田青陵**(1881-1938)：本名耕作。美術史を専攻し欧州留学で考古学研究を修めたのち、京都帝国大学に本邦初の考古学講座を開設。日本の科学的考古学の祖。『国華』編集に従事するなど美術にも通じていたほか、梅原末治・小林行雄・末永雅雄ら優秀な学徒を見出すなど教育者としても優れていた。人望厚く、京大総長に就任したが在任中に逝去。『通論考古学』など著書多数。

**末永雅雄**(1897-1991)：狭山池畔の素封家に生まれ、はじめ有職故実の個人指導を受け、のちに濱田青陵に師事した。『日本上代の甲冑』を上梓し帝国学士院賞を受けた。奈良県立橿原考古学研究所長、関西大学教授などを歴任。高松塚古墳の発掘調査を指導したほか、古墳研究に航空写真を取り入れるなどの功績が認められ、考古学界で初の文化勲章受章者となった。

**森 浩一**(1928-2013)：考古学と歴史学の結節する古代学の確立を目指した考古学者。学生時代に『考古学研究』を発刊し、在野の研究者を含む多くの者に発表機会を提供した。大阪府立泉大津高校で教鞭を執るかたわら、多くの古墳の発掘調査を主導した。のち同志社大学教授。天皇陵を天皇名を冠せず所在地名で呼ぶべきことを提唱するなど、その問題提起は大きな発言力を持った。